

## シャープ アクオス CL-13C1

みなさんの家のテレビ、液晶テレビだという方がかなり多いでしょう。しかし、20年前はどうでしたでしょうか？おそらく、ブラウン管テレビという方がほとんどだったと思います。2003年12月に地上デジタル放送が始まり、2011年7月に一部を除いて地上アナログ放送が終了、2015年12月にはケーブルテレビのデジアナ変換も終了しました。その間に、箱形で重かったブラウン管テレビから、薄型で軽い液晶テレビに買い替えが進んでいきました。といっても、初期の液晶テレビはブラウン管テレビに比べるとかなり高く、買い替えに躊躇した方も多かったと思います。

そんな中、液晶テレビの普及のきっかけとなったと言ってもいいのが、このアクオスLC-13C1でした。現在のテレビからすると、画面は13型と小さく、アスペクト比は4:3、その下には大きなスピーカーが目立っています。2001年に発売開始、メーカー希望小売価格は8万8000円でした。今なら40型くらいの大きな液晶テレビが買える値段ですね。

現在の液晶テレビでは、画面の周囲の縁が非常に狭くなり、スピーカーもどこにあるのかほとんどわからなくなっています。このため、メーカーなどによるデザインの違いがあまりなくなっていますが、このアクオスはスピーカーの部分の丸いデザインが独特でした。このアクオスをデザインしたのは、大阪出身のプロダクトデザイナー、喜多俊之氏。アクオスには、喜多氏のサインも入っているのです。

長谷川 能三(科学館 学芸員)



写真1. シャープ アクオス CL-13C1



写真2. 喜多俊之氏のサイン